

丞子

四元号の母の人生春立ちぬ
冴返る日差に潜む風を聞く
夢綴るハーフ成人春の虹

農子

○立春の茹で上ぐ葱の白と青
冴返る何時か来た道この道に
真夜中の夜明けと違う冬の月

郁子

○玄関のタイルに余寒来ておりぬ
立春や急に男の子の声変り
冴え返るまたぶりがえす持病かな

初江

○冴返る平地となりし文具店
○恋人岬夕日に余寒ひろがれり
立春の陽差しひかえめ猫を抱く

えり

○雪しまく被災地僧の立ち巡り
春来るや押入れの中掻き出せり
冴返る今温存の四股河童

富江

○早春へ夫に合わす歩一万歩
立春の今朝の浜辺に佇みて
低空のドクターヘリや冴え返る

万貴

○冴返るまたも反戦作家の計
ウクライナへ交換俳句風光る
大口で笑う木彫達磨や春立つ日

富子

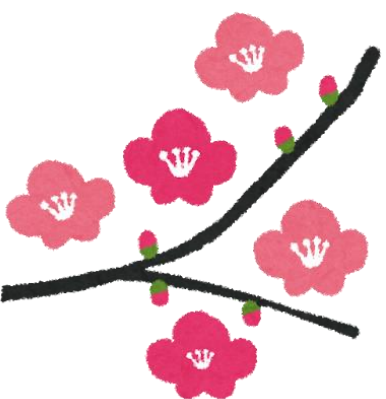
○善哉を炊いて一夜を冴え返り
立春や蔀の臺を飯に乗せ
梅日和「飢餓海峡」の話あり

千代

○立春のいななき響く草千里
立春の齒触り軽きビスケット
通せんぼ如く検温冴返る

文子

○冴えかえる鵲の影ゆく水の底
犬槇の樹形整え冴えかえる
春立つ夜友の写真に繰り言を



味元 昭次 作品

立春の顔して長女みてました
立春の九九を唱える子供たち
立春の土佐文旦をひとつ置く

★次回市民句会

【開催日時】

令和五年三月二十二日（水）

午後一時十五分～午後四時（予定）

【場所】

オーテピア4階 研修室

どなたでも自由にぞ参加いただけます